



特集

瑩山禅師ものがたり 19



後醍醐天皇から十種の質問が投げかけられ 瑩山さまの回答が新たな展開を呼び込みます

また観音様が夢枕に

瑩山さまが總持寺に入山されて、三日後の一三二二年六月のことです。ご本尊の観世音菩薩様が瑩山さまの夢枕にお立ちになり、

「瑩山よ、總持寺に山門を建立すべし」とお命じにいられたのです。夜明け前のことでした。

瑩山さまは早速山門の建立に取りかかられました。完成した山門の楼上には、放光菩薩が奉安されました。放光菩薩は、中国でも日本でも安産祈願の仏さまとして崇拜されてきました。瑩

山さまご自身もお母様の安産祈願の末にお生まれになっており、地域の檀信徒の女性たちへの配慮が感じられます。

天皇からの十種の質問に

翌一三二二年、瑩山さまが五十二歳の時のことです。当時、都では後醍醐天皇が即位されて四年目を迎えています。能登に總持寺を開いた瑩山さまの噂を耳にされた後醍醐天皇は、臨済宗の僧、弧峰覚明禅師を使者として、十種の質問を瑩山さまのもとに投げかけられました。ちなみに弧峰禅師は、

No. 74
2025 Spring

山松舎
寺南臨

実は、かつて永光寺の瑩山さまのもとに参じており、弟子のひとりでした。

その十種の質問は、天皇ご自身の生死にかかわる悩みや迷いから生まれたものも含まれており、どれをとっても難問ばかりでした。対する瑩山さまの

お答えは、お釈迦様から道元禅師に至る曹洞禅の神髄を集めて、真剣にかつ明快にまとめられました。

後醍醐天皇は瑩山さまの回答に深く心を動かされ、いたく感激されました。積年の悩みや迷いが氷解するものまであったようです。

「曹洞宗」が公式に認定される

その年の八月、瑩山さまは、後醍醐天皇からお褒めの言葉をいただいた上に繪旨まで賜ったのです。

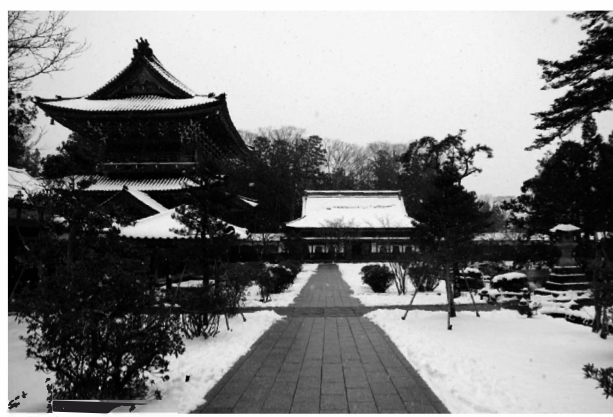
そこには、「總持寺はわが国では二つとない素晴らしい禅宗の寺院であり、曹洞宗の出世道場に任命する。紫衣着用し、国家と国民の安泰を祈願せよ」とありました。

紫衣の法服を賜り、藤原行房卿が「總持寺」と揮毫した勅額を下賜されて、總持寺は官寺に昇格しました。

總持寺は一宗の大本山であることが認められ、同時に、總持寺を中核とする教団が「曹洞宗」と称することが公式に認められたのです。

さらに、後醍醐天皇は瑩山さまから受戒を受けられました。天皇の第六皇子恒良親王のお誕生に際しては、總持寺の山門の放光菩薩に安産祈願がされました。

こうして瑩山さまは、總持寺がその後永く曹洞宗の本山として栄える礎を築かれたのです。



總持寺祖院の雪景色

彼岸会のお日のくもりもありがたや 原 石鼎

三月二十三日の彼岸会施食会には ご家族そろってお参りください

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますが、冬の寒さが彼岸を境に薄れていき、春が来て過ぎしやすくなります。生活の区切りとして、昔から大切にされてきたのが春分の日です。

春分の日を中心に、その前後それぞれ三日間をあわせた七日間が「お彼岸」です。今年は、三月十七日が「彼岸の入り」、二十日が「彼岸の中日」、二十三日が「彼岸結願」になります。

彼岸の中日の春分の日には、太陽が真東から昇り真西に沈みます。私たちが生きているこの世「此岸」と、亡き人の世界である「彼岸」が最も近くなり、亡き人やご先祖様への思いが通じやすくなる特別な日です。

病気や悩みが多く先行きがよく見えない此岸から、迷いや苦しみのない心安らかな彼岸へ。お彼岸の七日間は、気持ちよく彼岸に

旅立てるよう、生き方を見直し、善行を積んで、ご先祖様に感謝をささげましょう。

臨南寺では、彼岸結願の二十三日午後二時から彼岸会施食会を修行いたします。ぜひお参りいただき、ご先祖様に手を合わせましょう。当日ご都合のつかない方は、不参加でのご回向をお受けいたしますのでお問い合わせください。



3月23日はご家族そろってご先祖様に感謝をささげましょう



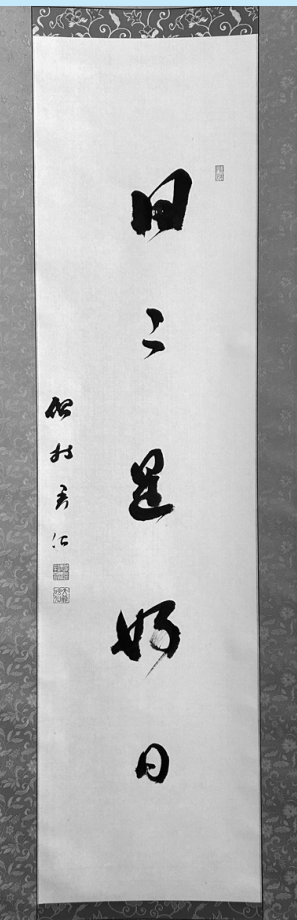
にちにちこれこうじつ

『日々是好日』の掛軸

この掛軸は、大本山總持寺の貫首を務められた大道晃仙禅師の書によるものです。

「日々是好日」——これは中国・唐末期の雲門文偃禅師の悟りの境地を表した言葉です。

毎日いい日が続いて結構だ、という浅い意味ではありません。私達が、今日はよい日だと思ふ場合を考えてみましょう。「天氣が良かった」「運が良かった」などの基準で判断しがちです。しかし、これは優劣や損得に囚われすぎた考え方です。ある日幸運が訪れても、その後に来る不運におびえなければ



この掛軸は、休憩所でご覧いただけます



大道晃仙禅師

なりません。

日々是好日とは、そんなこだわりのや囚われをさっぱりと捨て切つて、その日一日を、ただありのままに生きる楚々とした境地のこと。何か大切なものを失った日であろうとも、ありのままにひたすらに生きれば、すべて好日になります。好日の好は「好き」の意味ではありません。積極的に生きる決意の「よっしゃあ」が「好」なのでしょう。

禅では、過ぎ去つたことにこだわつたり、まだ来ぬ明日に期待したり恐れたりせず、生きていることに感謝して、今この一瞬を精一杯に生きるのです。

「はんにや心響」第六回

『じじいのがみ』

中学生のころまで私のお寺の便所は、いわゆる『ポットン便所』でした。用をたせばお釣りが返ってくる……今の子どもたちにはなかなか理解しづらい便所です。掃除が行き届いても、臭いはするし隙間だらけなのでカマドウマやクモがしょっちゅういて、良いイメージはありませんでした。

その便所を、私の父は雑巾と素手で掃除していました。私が「うえーっ」と思っているのを見透かしたように「なんだ？ 汚いか？ お前も使っている便所だろ。お前もやってみるか？」と言って来ました。私が首を横に振ると「手なんて洗えばキレイになる。こういうことを、汚い」と思っているお前の心の汚れはなかなか落ちないぞ」と言って、またゴシゴシ掃除し始めました。

時は経ち本山修行中、小便器をたわしでゴシゴシ磨いていると、隣で掃除している老師(指導者)は素手でキッキキッキツッキ小便器の汚れを確認しながら黙々と掃除していました。幼少期の想い出とともに「これがお坊さんかあ……」と感心したものです。

禅道場では便所を「東司」と呼び、大



山形県酒田市 正常院住職
成澤祐吾老師

切な修行の場と位置付けております。なにも素手で掃除するからスゴイ！と言っているわけではありません。

私たちは容姿を整えたりするのに「鏡」を見ますが、ありのままに映し出す「鏡」もその人の「心」までは映し出しません。私は東司を『心を映し出す鏡』だと思っています。東司をキレイにしようとするめることによって、自らの心も清らかなってゆく、ように感じます。

心が落ち着かなかつたり乱れてしまっているときに、丁寧に東司掃除を行うとなんとなくスッキリしますし、清潔な東司は気分も良い。別の場所で手洗いをお借りする際もその気持ちかわかるからキレイに使用おうと努めるでしょうし、心が豊かになつてゆく。

東司は毎日お世話になる場所です、清潔に保つことは当たり前のことですよ。当たり前を丁寧に、具体的にやってゆくことを我々は『仏道修行』と言っています。

合掌

臨南寺行持予定 (三月・四月・五月)

彼岸会お墓経

* 三月二十日 午後二時～午後四時
* 三月二十二日 午前十時～十二時

お彼岸のお墓経を行います。臨南寺にお墓をお持ちの方に限りです。(回向料二万円)

マトリお墓経

* 三月二十日 午前十時～午前十二時
* 三月二十二日 午後二時～午後三時

お彼岸のお墓経を行います。お席に限りがありますので各家五名様までお願いいたします。(回向料二万円)

春季彼岸会施食会

* 三月二十三日 本堂にて 午後二時～午後三時三十分

お彼岸供養の法要を行います。お彼岸はご先祖様に感謝する大事な期間です。ご先祖様を偲び、今あることを感謝いたしましょう。どなたでもご参加いただけます。(回向料二万円)

釈尊降誕会(花祭り)

* 四月八日 本堂にて

お釈迦様のお誕生日に、感謝と報恩の法要を行います。本堂前にお誕生仏と甘茶を準備しています。

がつしょう園マトリ合同法要

* 五月十日 午後二時～午後二時三十分

マトリにご納骨された方々の慰霊の法要を行います。マトリでご焼香していただきます。



早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前八時～ 本堂にて

* 一月と八月はありません。中止する場合がありますので、前日にお電話でお問合せください。

よろしくお願ひします

北代雪馬きただいせつま

昨年しんねんの十二月より勤めております、
兵庫県三田市出身の北代雪馬と
申します。

丹後宮津にある智源寺にて二年
半の修行生活を送り、そのちに
葬儀会社で働くことを中心に、師
匠である叔父のお寺に勤めておりましたが、その約一年後に脳
梗塞になりました。

倒れた時の状況が良かったのもあり後遺症もなく回復し
たものの、葬儀会社社員としてよりも僧侶として日々努めて
いきたいと思い、方々に相談したことで臨南寺にお勤めさせて
頂くこととなりました。

智源寺修行時代の一番印象に残っている禅語に「威儀即仏
法 作法是宗旨」という言葉があります。威儀とは私たちの
身なりや所作のことで、自身の姿や形、諸々の作法はそのまま
仏道であるという教えです。

智源寺では、食事に気をつけ、掃除をして環境を整え、立ち
振る舞いを直すなど、徹底的に丁寧ていねいに過ごす事を教えて頂き
ました。それにも関わらず、葬儀会社での仕事の忙しさから、
日々の生活が乱雑になり大病を患ったのではと思っております。

この度、有難いことに御縁を頂き臨南寺に参りました。毎
日のお勤めの中、立ち振る舞いなどに気を付け、お檀家様や
皆様に信頼してもらえようように努め、今一度、良き僧侶となる
ため精進してまいりますのでよろしくお願ひ致します。



總持寺祖院が国の重要文化財に指定されました

能登半島地震で大きな被害を受けた總持寺祖院ですが、主な建造物の歴史的な価値の高さが認められ、重要文化財に指定されました。

二〇〇七年の能登半島地震で被災し、復旧工事により元の姿に戻ったのも東の間、昨年しんねんの能登半島地震で再び大きな被害を受けました。

このほど、總持寺祖院の大祖堂、仏殿、山門など十六棟の建造物が国の重要文化財に指定されたのです。工事の完成までには大変な時間がかかりますが、今回の決定により修復工事に国の手厚い補助が受けられることになりました。この決定は曹洞宗全体への朗報だけでなく、能登地域の復興への追い風、「門前や能登の希望の光」になることでしょう。



總持寺祖院の山門

編集後記

昨年いろいろなことがありました。
私の最大の出来事は、大阪府の遺族代表として広島ひろしまの原爆慰霊式に招待されたことです。産経新聞や中国新聞の取材を受け、カラーで掲載されました。その後の被団協のノーベル平和賞の授賞式も忘れられません。(M)

お墓じまいの
ご相談は
お早めに寺務所まで
どうぞ



「お墓を継いでくれる人がいない」
「最近、お墓参りが大変になってきた」
——今、さまざまな理由でお墓じまいを考えている方が増えています。
ご先祖さまからの思い出がたくさん詰まった、ご家族のための大切なお墓です。お墓じまいといっても、何から手をつけたらいいのかわからない人がほとんどだと思います。

そうかといって、何もせずに先伸ばししていると、時間だけが過ぎてしまいます。万一、当事者が亡くなると、役所の手続きを含めてさらに複雑さが増して、余計な費用も掛かってしまいます。

臨南寺には、永代供養付きのがつしょう園マトリもございます。お元氣なうちに、早めに寺務所にご相談ください。

「ほ〜っと」74号

令和7年2月

編集・発行： 稜伽林りょうがりん

「ほ〜っと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://rinnanji.com